

泊発電所の再稼働に向けた取り組み状況をお知らせいたします

【新規規制基準適合性審査への対応状況】

- ✓ 当社は、安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、原子力規制委員会による審査に真摯に対応しています。
- ✓ 7月2日の審査会合にて、当社が最優先課題と位置付け取り組んできた「発電所敷地内断層の活動性評価」について、F-1断層も含めた敷地内断層は「活断層」ではないとする当社評価に対して、原子力規制委員会より「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただきました。

【今後の対応】

- ✓ 当社は、電気料金値下げによるお客さまのご負担軽減、さらには電力の安定供給のために、早期再稼働を実現できるよう、引き続き、審査対応に総力をあげて取り組んでまいります。
- ✓ また、審査の状況や泊発電所の必要性などについてご理解いただけるよう、ホームページや広報誌のほか、地域の皆さまとの対話などを通じて、丁寧かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。

1. 「発電所敷地内断層の活動性評価」に関わる審査概要（2021年7月2日 審査会合）

【課題】

- 発電所敷地内の断層※1が、将来活動する可能性のある断層等※2（活断層）ではないことを説明する。

※1 発電所敷地内に認められる11条の断層（F-1断層～F-11断層）のこと
 ※2 約12万～13万年前より新しい時代の活動が否定できないもの

【当社説明】

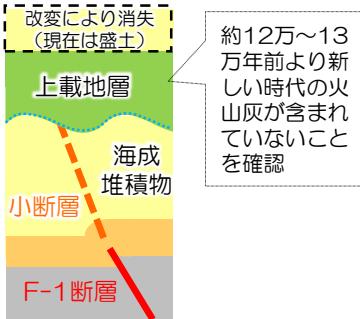
- F-1断層について、2021年2月12日の審査会合におけるコメントを踏まえ、上載地層※3の堆積年代の根拠を補強するため、地質データの拡充を実施した。その結果、上載地層には約12万～13万年前より新しい時代の火山灰が含まれていないことを確認した。

※3 断層を削り込み堆積する地層、または断層を直接覆う地層のこと

- これまでの各種調査結果から、F-1断層に関連する小断層は上載地層に変位・変形を与えていないこと(①)や、上載地層の堆積年代は約12万～13万年前より古いこと(②)から、F-1断層は約12万～13万年前より新しい時代の活動が認められない(活断層ではない)。また、F-1以外の断層についても、上載地層の堆積年代を評価することなどにより、約12万～13万年前より新しい時代の活動が認められない(活断層ではない)。



＜①調査箇所拡大写真＞

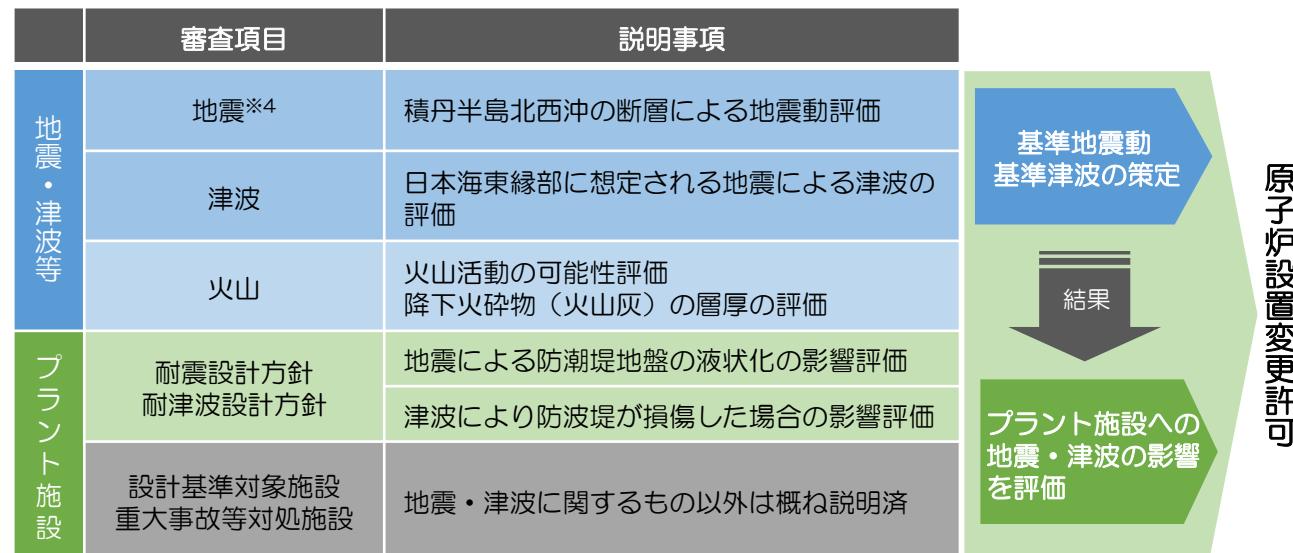


＜②F-1断層活動性評価 概念図＞

F-1断層も含めた敷地内断層は「活断層」ではないとする当社評価に対して、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいた。
 (2021年7月2日審査会合)

2. 今後の主要な審査項目と原子炉設置変更許可取得に向けた審査の流れ

- 地震・津波等の審査対応を行い、基準地震動・基準津波の策定等を進めていく。
- プラント施設については、今後策定する基準地震動・基準津波をもとに、その影響を評価していく。



※4 地震のうち「震源を特定せず策定する地震動」については、2021年4月の審査ガイド等の改正を踏まえ、適切に対応していく。なお、積丹半島北西沖の断層による地震動評価は、「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」に該当

3. 今後の主要な審査項目（概要）

地震動評価

【積丹半島北西沖の断層による地震動評価】

- 基準地震動の策定に向け、泊発電所の安全性をより一層高める観点から、積丹半島北西沖に活断層を仮定し、地震動評価を行っており、評価結果について説明する。
- 2021年3月19日の審査会合において、当社評価結果を説明し、断層の方向設定※5の考え方について整理することなどについてコメントをいただいた。今後、資料を修正し、審査会合などで説明していく。

※5 断層の位置、方向、長さ、傾斜角等を設定する必要がある

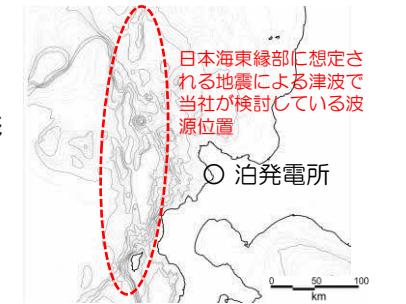


津波評価

【日本海東縁部に想定される地震による津波の評価】

- 基準津波の策定に向け、日本海東縁部に想定される地震によって発生する津波の評価を行っており、評価結果について説明する。
- 2021年5月28日の審査会合において、泊発電所に最大規模の影響を及ぼす津波の想定波源※6について、最新の知見を踏まえた現時点の検討状況を説明し、想定波源位置の東西方向の設定方法について考え方を整理することなどのコメントをいただいた。今後、資料を修正し、審査会合などで説明していく。

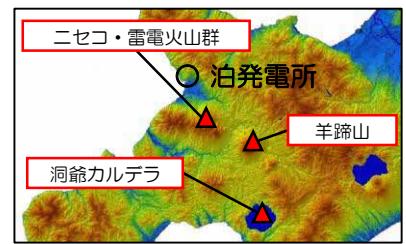
※6 想定する津波の原因となる海底の隆起や沈降を起こす領域



火山影響評価

【火山活動の可能性評価、降下火砕物（火山灰）の層厚の評価】

- 火山影響評価ガイドの改正を踏まえた火山活動の可能性評価、実効性のある火山のモニタリング手法について、今後、審査会合などで説明していく。
- 降下火砕物（火山灰）の層厚について、シミュレーションなどにより評価し、今後、審査会合などで説明していく。

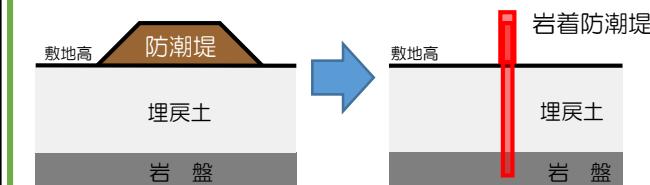


＜モニタリング対象火山＞

プラント施設への地震・津波の影響評価

【地震による防潮堤地盤の液状化の影響評価】

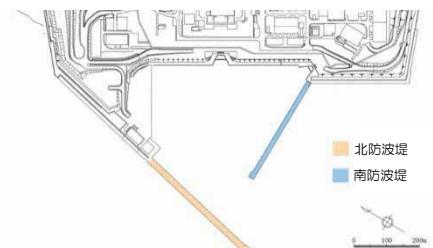
- 安全性をより一層高める観点から、岩着支持構造（堅固な岩盤の上に支持させる形式）による防潮堤に設計変更することとしている。
- 今後、地盤の液状化評価および地震・津波に対する防潮堤の健全性評価について、審査会合などで説明していく。



＜設計変更の概要（詳細は検討中）＞

【津波により防波堤が損傷した場合の影響評価】

- 津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響について、今後、防波堤の移動や沈下に関する解析や水理模型実験の結果を用いて審査会合などで説明していく。



＜泊発電所防波堤配置図＞